



リセット中はチャホヤしないで

夏休みが明け、慌ただしい日々が戻ってきました。本年度は7月までに小中23校から支援要請があり、特に小学校1～3年生に関する相談が目立っている状況です。

前号までは、教室からの飛び出しや大騒ぎ・大暴れになる前に、子どもが気持ちをリセットする行動の許可を得る方法（第7号）や、教師に申し出るタイミングを計るための心の状態のスケーリング（第8号）について述べてきました。

教師が示した枠組に沿って行動し、称賛される体験は、子どもに喜びや満足感、自信などの肯定的な感情や自己認知をもたらし、次の局面での自己統制への動機づけとなります。できないことが多くても、子どもを責めるのではなく、次への期待を伝えます。例外的でもうまくできたなら、本人の力を大いに称賛します。「例外」が少しずつでも増えていけば良いのです。

気持ちをリセットさせる際、**立ち会う教師は、必要最少限の声かけ以外は、子どもに話しかけないこと**が基本です。

必要最少限の声かけとは、例えば次のようなものです。
「ここ（場所）で○分間の間に気持ちを切り替えよう。」
「ここでしていいことは、○○○と△△△です。」
「○分経ちました。教室（自席）に戻りましょう。」など。

- 一方、**こんなかわりはNG**です（特に職員室や保健室等の別室で）。
- × 「これ、おもしろいよ。見てごらん。」と、何かを見せる、与える。
 - × 「先生と一緒に勉強しよう。」と、学習指導を行う。
 - × 「先生の仕事、手伝ってくれるかな。」と、何らかの作業をさせる。
 - × 「何かやりたいことないかな。」と、希望を聞いてそれに応じようとする。
 - × 職員から話しかけて、又は子どもからの話しかけに応じておしゃべりをする。



こうした対応は、子どもに楽しい時間を提供することになり、**楽しさ目的にリセットの時間を求めるようになると、本来の目的や意味をなさなくなってしまいます。**



これは興奮した子をクールダウンさせる際も同じです。**善意の対応が、結果として子どもをチャホヤし、「暴れれば／騒げば、楽しみが待っている」と子どもに誤学習をさせてしまうこと**になります。

子どもから教師に話しかけてくる場合は、「今は気持ちを切り替える時間。お話ししないで静かに過ごす約束だったね。」と穏やかに、きっぱりと遮ります。

なお、**不安や緊張が強くて教室に入れず、別室を居場所とする子や、愛着の問題から情緒が不安定な子では、上記×印のような対応が有効な場合もあります。**対応はあくまで**ケースバイケース**です。

廊下などでリセットする場合は、許可証を首から下げるなどすると、通りがかりの教師にもすぐに分かり、子どもも安心して居られます。

本号より本文の字体をUD(ユニバーサル・デザイン)フォントに変更し、読みやすくしました。教育センター・キャビネット内に保管の第1～8号も同じく変更しました。

担当 学校生活適応支援アドバイザー（飯山・大瀧）
TEL 639-4392